

新型インフルエンザの当院の対応について

全国的に新型インフルエンザの発生が増加し、函館市でも今シーズン初の「インフルエンザ警報」が発令されました。それに伴い感染拡大防止のため、当院では以下の対策を実施しておりますので、患者さま、地域のみなさまにおかれましてはご理解とご協力をお願い致します。

1. 受診時

インフルエンザ症状 発熱、咳、鼻水、のどの痛みなどの症状がある方は、事前に電話での受診相談をしていただくようお願い致します。速やかに対応できるよう、必要に応じて受診時間などについて調整させていただきます。

外来通院中の患者さまで、予約診療日に上記の症状がある場合も、診察前の受付時にあらかじめ、お申し出ください。必要に応じて他の患者さまと別の待機場所を指定させていただきます。

症状がある場合は、なるべく平日の診療時間内（9～17時）の受診をお願い致します。時間外診療や救急外来では原則的にインフルエンザ迅速検査は行いかねます。また、症状が現れてから24時間経過していない場合は、迅速検査を実施しても陰性となるため、検査をしないでお薬を処方する場合もあります。

2. 透析患者さま

症状が無くても、うがい、手洗いを徹底し、人ごみはなるべく避けるなど感染予防に努めてください。

万が一、インフルエンザの症状が現れた場合には、腎臓内科外来へ電話で受診相談をしてください。透析日であっても症状がある場合は直接来院せず、腎臓内科外来へ電話してください。医師の診察後に透析を行いますが必要に応じて、個室での透析や他の患者さまと接しない時間に透析を行わせていただきます。

来院後に異常を感じた場合は速やかに透析室スタッフへお申し出ください。

3. マスク着用をお願い

他の患者さまへの感染拡大防止のため、発熱、咳、鼻水、のどの痛みなどの症状がある方は、来院時には必ずマスクの着用をお願いします。

当院では、新棟、正面棟玄関、小児科外来前、呼吸器内科外来前にマスクの自動販売機を設置し、地下売店での販売も致しておりますのでご利用ください。

4. 面会の方へのお願い

インフルエンザ流行期以外でも、発熱、咳、鼻水、のどの痛み、下痢の症状のある方の面会、お見舞いはお断りさせていただいております。

また現在のようにインフルエンザ流行期には、会社や学校、家族内でインフルエンザ感染が蔓延しているなど感染の疑いのある方はなるべく来院を控えていただくか、マスクの着用をお願い致します。

入院中の患者さまへの感染拡大防止のため、ご理解とご協力をお願い致します。

新型インフルエンザ Q&A

新型インフルエンザに関して、良くある質問をまとめてみましたので参考にしてください。ここに書かれていることをすべて行ったとしても、周囲への感染の可能性が完全になくなるわけではありません。しかし、できることから丁寧に実行していただき、周囲を守るという配慮を重ねていただければと思います。

Q1．新型インフルエンザに感染すると重症になるのですか？

1. いいえ。ほとんどの方が軽症で回復しています。

ただし、持病のある方々のなかには重症化する危険の高い方もおられます。特に次の持病のある方々は、手洗い、うがい、人ごみを避けるなど、感染しないように注意してください。また、周囲の方々も、感染させないように配慮しましょう。

慢性呼吸器疾患
慢性心疾患
糖尿病など代謝性疾患
腎機能障害
ステロイドなど免疫機能不全

上記の病気の方はもちろん他の疾患で通院中の方も、日頃どのようなことに注意して、どのような時に受診したらよいのか、かかりつけ医へ相談しておきましょう。

次のような方もインフルエンザが重症化することがあると報告されています。
持病のある方と同様に感染予防に努めましょう。

妊婦 幼児 高齢者

Q2．熱が出ていて咳もあります。病院を受診した方が良いですか？

A．症状が比較的軽い方は、必ずしも受診する必要はありません。ただし、持病のある方は重症化する可能性がありますので、なるべく日中にかかりつけ医に相談しましょう。

もともと、健康な方でも、次のような症状がある場合には、すぐに医療機関を受診相談してください。

小児

呼吸が速く、息苦しそうにしている
顔色が悪い（土色、青白、唇が紫色など）
嘔吐や下痢が続き、水分が取れない
落ち着きがない、意味不明なことを言う、遊ばない、反応が鈍い
症状が長引き、悪化してきた

大人

- 呼吸困難、または息切れがある
- 嘔吐や下痢が続き、水分がとれない
- 3日以上発熱が続いている
- 症状が長引き、悪化してきた

抗ウイルス薬を服用してもすぐに症状が良くなるわけではありません。診察時にどのような症状があらわれたときに再度受診をするべきか、注意すべき症状を医師に確認しましょう。症状がよくなっても処方されたお薬はすべて指示通り服用してください。

Q3. 自宅療養する場合、どのような注意が必要ですか？

A. 同居している家族への感染を100%防止する方法はありませんが、なるべく感染しないように、以下のことを心がけてください。

インフルエンザ患者であるあなたは・・・

- 咳エチケットを守りましょう*
- 手をこまめに洗いましょう
- 受診時に処方された薬は指示通りに最後まで服用しましょう
- 水分補給と十分な睡眠を心がけましょう

患者の同居者のあなたは・・・

- 患者の介護などをしたあとは、必ず手洗いをしましょう
- 可能であれば患者と別の部屋で過ごしましょう。同室で過ごす場合も、2m以上離れた場所で待機すると良いでしょう。
- マスクの感染予防効果は限定的ですが、患者と接する時はなるべくマスクを着用しましょう。ウイルスのついた手で自分の目や鼻をこすることでも感染する可能性がありますので、その意味でも患者の介護時にマスクをすることは感染防止に役立つと考えます。
- 患者の使用した食器や衣類は通常通りの洗浄・洗濯で大丈夫です。特別な消毒は必要ありません。

* 咳エチケット

1. 咳やくしゃみのしぶき（飛沫）は2m近く飛ぶと言われています。咳、くしゃみをする時は、なるべく人から離れましょう
2. 咳やくしゃみをする時は人のいない方を向いて、ティッシュなどで口と鼻を覆い他の人にしぶき（飛沫）をかけないように心がけましょう。
3. 咳やくしゃみを抑えた手、ティッシュを使用した手をすぐに洗いましょう
4. 咳、くしゃみが出ている間はマスクを着用しましょう。使い捨てマスクの場合、使用後のマスクは放置せずにゴミ箱へ捨てましょう。

特に持病があったり、妊娠している方が同居している場合には、出来る限り別の部屋で過ごすなど、患者と接する機会を減らすようにしましょう。持病のある方の場合病状によっては感染予防のために薬が処方される場合もありますので、事前にかかりつけ医に同居者が感染した場合の対応を相談しておきましょう。

Q4 . 自宅療養しています。熱がさがったので外出してもいいですか？

A . 熱がさがっても、インフルエンザの感染力が残っていることがあります。完全に感染力がなくなる時期は明らかになっていません。個人差も大きいと言われていています。少なくとも次の期間は外出しないように心がけましょう。

治療開始後、熱が下がって2日目までは外出しない

上記以後であっても、発熱や咳、のどの痛みなど症状がはじまった日から7日間は感染力があると思って、なるべく外出を控える。また外出する場合でもマスクをする

さらに詳しい情報について

- 厚生労働省・新型インフルエンザ関連対策情報
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/>
- 国立感染症研究所・感染症情報センター
http://idsc.nih.gov/disease/swine_influenza/